

巻 頭 言

泌尿器科紀要 主幹
京都大学教授・泌尿器科学
吉 田

修

われわれの周囲には今日、情報が溢れている。医学・医療に関する情報もしかりである。しかし、この状態を、自分に必要な情報は得ている、またそれをいつでも得ることができると錯覚している人が無きにしもあらずである。

今日確かに情報は氾濫しているが、それだけにその選択が必要である。換言すれば、価値の無い情報に費やす暇は無い。選択された情報の中から、今日の自分に、そして明日の自分に必要なもののみを選ぶのが、医学徒としてしなければならないことである。

泌尿器科紀要は1954年 故 稲田 務 京大名誉教授によって創刊された。以来今日まで関係者各位の並々ならぬ御尽力により、多くの論文を掲載してることができた。またこの伝統を引継ぎ、それを一層価値あるものにするために、京都大学泌尿器科学教室が払ってきた努力は、率直に言って大変なものである。われわれは、一大学の講座の立場を全く離れて本誌の刊行を続けてきた。何をしてこの情熱を維持せしめたかを考えると、選択された価値ある情報を提供することにより泌尿器科学の進歩に役立ちたいという気持ちだと、なんのてらいもなくいえる。今後もその努力は惜しまないし、基本理念は変わることはない。

本誌はすでに編集委員による査読制を導入している。今日一般に論文が掲載されるまでに時間がかかりすぎる。外国の英文誌では一年以上かかることもある。本誌は、できるだけ掲載を早くするよう努力する。また、本誌に掲載されている論文を国際的にも紹介されるよう務めている。

本号から気分を一新して新しい表紙にした。1990年代の学術雑誌にふさわしいものにするための、我々の決意の現れと解釈していただきたい。